

「ノートテイク」って知ってる？

～ 目次 ～

はじめに	P1
聴覚障害とは	P1
マンガ	P2～5
ノートテイクについて	P6
利用学生・ノートテイク経験者の声	P7～8
もしも耳が聴こえなかったら	P9
ノートテイク Q&A	P10
ノートテイクの申込み方法	裏表紙



マンガ：ヨシカワ 雪子

●○ はじめに ○●

本学には障害のある学生がみなさんと共に学んでいます。

障害の種別にもよりますが、障害のある学生が授業を受ける際には、なんらかのサポートを必要とします。そのサポートの多くは、在学生の協力を得て行なっています。

この冊子では、聴覚に障害のある学生のサポートについて、マンガでわかりやすく紹介しています。

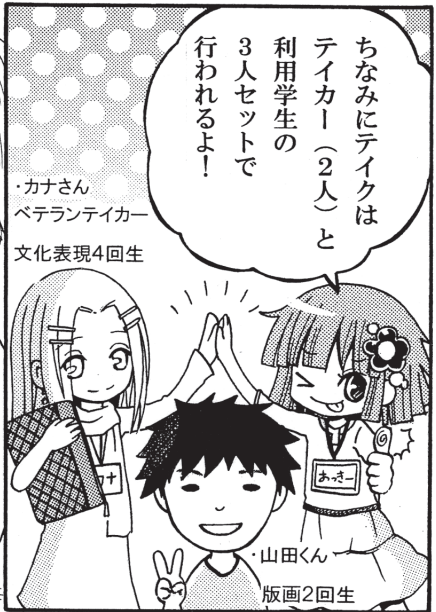
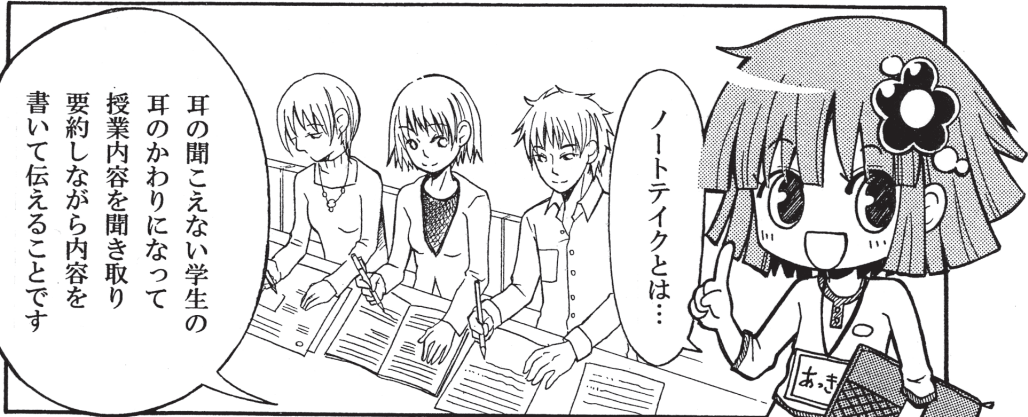
みなさんの中で「聞こえない」ということが身近なものとしてとらえられ、同じ学生として共にあるということを理解し、手助けとなることを望みます。

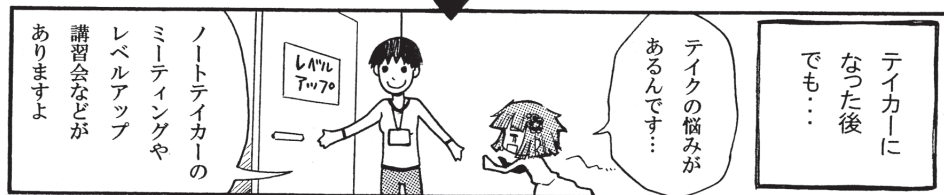
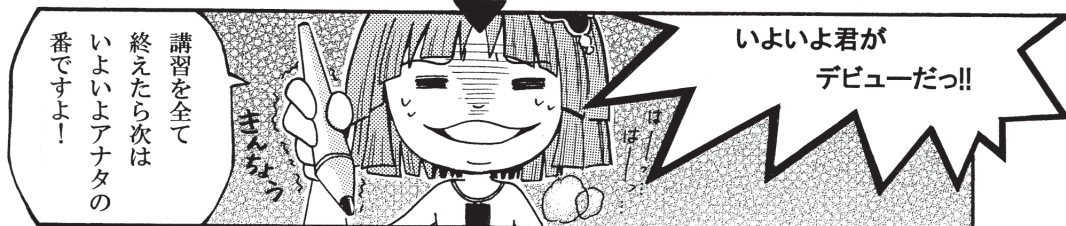
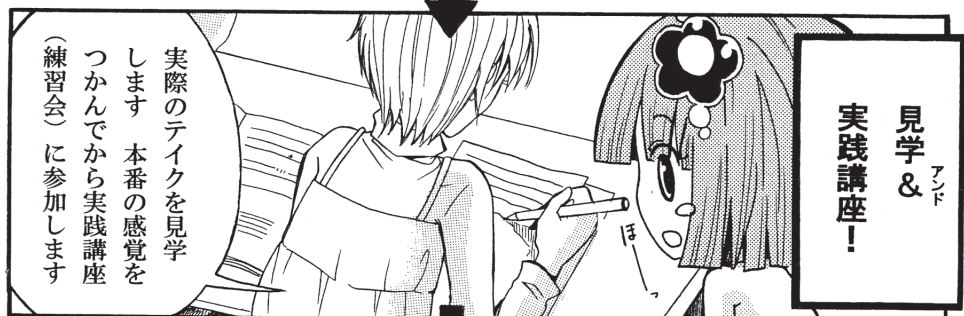
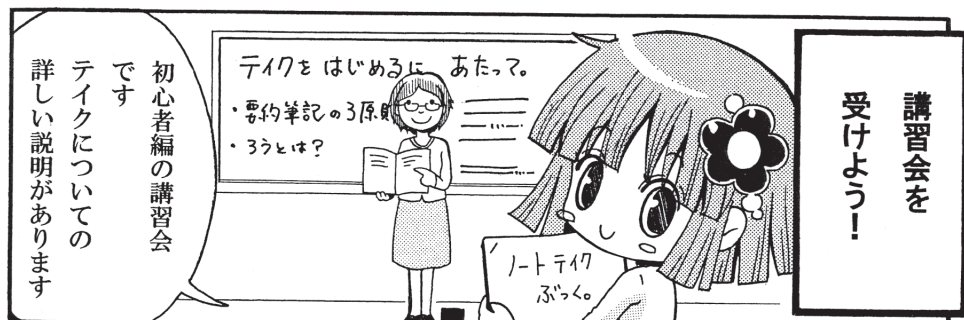
● ○ 聴覚障がい者とは？○ ●

音の聞こえに関わる部位に何らかの障害があり、音が聞こえにくい、聞こえない状態を「聴覚障害」といいます。聴覚障害は人によって聞こえの程度や聞こえ方が様々なので、ひとくちに聴覚障がい者といってもそのコミュニケーション手段は様々です。手話でしゃべる、声と手話でしゃべる、声だけでしゃべる、筆談でしゃべる、その他にもいろいろあると思います。

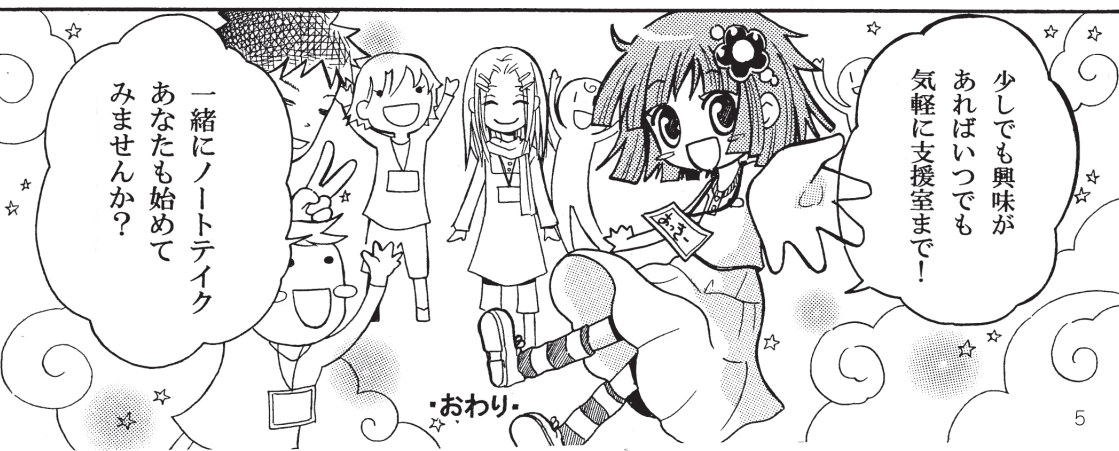
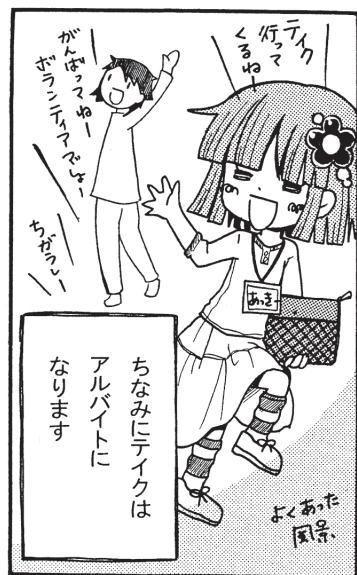
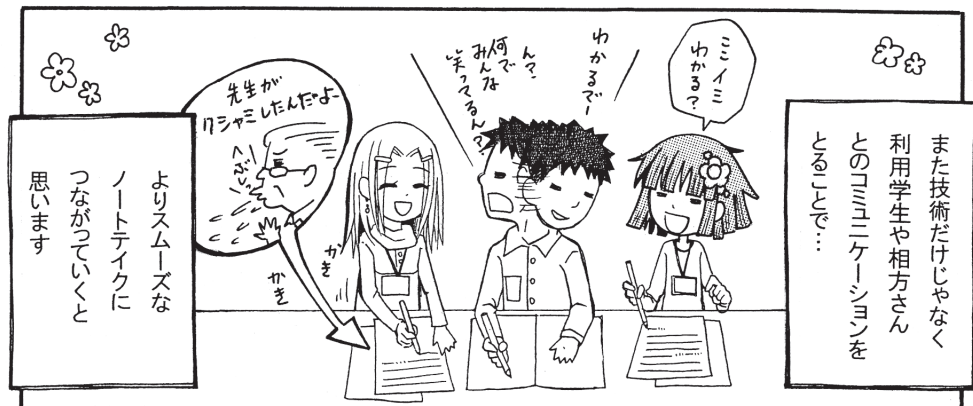
聴覚障がい者の聞こえ方にも人それぞれ違いがあります。補聴器を付ければ音の聞き分けが出来るが、その聞こえる音が小さくて聞き取りにくい、補聴器を付けても聞き分けも聞くことも全くできない、補聴器を付ければ多少は聞こえるが、聞き分けは出来ない（←これが大多数なのですが）など。補聴器を付けなければ、ほとんどの人が全く耳が聞こえない状態です。※補聴器をあまり付けない人もいます。

「ろう」「難聴」「中途失聴」「進行性難聴」などの分類もあり、そういう人たちを総じて、「聴覚障がい者」といいます。





★ 不安や悩みはここで解決だ★



●○ ノートテイクについて ○●

現在、京都精華大学には耳が不自由な学生が3人います。その学生たちが当たり前前に講義を聴き、自分なりに感想を持つという、当たり前前の情報保障を受けるために「ノートテイク」というサポートがあります。

皆さんは「ノートテイク」という言葉を聞いたことがありますか？

ノートテイクは要約筆記とも呼ばれ、音情報を文字に変えて伝える通訳方法のことをいいます。大学で行われるノートテイクは、聞こえない学生を挟んで両隣りにノートテイク（筆記通訳者）が座り、聞こえない学生の耳の代わりとなって、「今、何が話されているのか？」「何が起きているのか？」をリアルタイムに紙に書いて伝えます。

「ノートテイク」は学内で出来るアルバイトでもあります。（詳しくは障がい学生支援室にお問い合わせ下さい）

学内でノートテイクを募集し、養成講座を開いています。ノートテイクの技術を習得し、みなさんの空き時間にノートテイクとして耳の不自由な学生の授業でサポートしてもらいます。



●● 利用学生の声 ●●

光田潤平

「ノートテイク」という言葉は大学に入る前から知っていました。実際にノートテイクを付けて授業を受けたのは大学に入ってからです。

京都精華大学に入ったのも、そういう支援があると聞いたからです。

僕は結構、声や音が聞こえる方なのですが、それでも聞き逃しがあり、聞き逃した時に書いてもらったノートを見ると、「ああ、こんなことを言ったんだ」とすぐにわかります。テイカーさんも聞きながら書くのは大変だと思います。先生の話が聞き取りにくいときなど、大変そうでした。ですが、それでも書いてくれるとすごく助かります。

自分の席の両側にテイカーさんが座ってくれるのは最初はてれくさかったです。でも、一ヶ月もすると慣れ、テイカーさんとも仲良くなりました。

先生方もノートテイクのことを理解してくれ、授業を工夫してくださいました。

ノートテイクを知らない人は「なんだろっつ」と思つかもかもしれませんが、是非、声をかけてください。

こちらも待っています。

●● 利用学生の声 ●●

桐原伸博

私は、聾学校の小学部から高等部に通っていました。小・中学部の授業は、すべて先生が手話で行っていました。なので、皆が手話ができて当たり前でした。私の親も聞こえなかったので、手話の習得に時間はそんなにかかりませんでした。しかし、そのような環境だったので、ノートテイクのことは知りませんでした。

高等部の時、卒業後、社会に出るための知識、技術等を学びました。そのときに初めてノートテイクの存在を知りました。それまで私は大学に行くという耳が聞こえにくいので、いろいろ大変な目に遭うだろうと思っていたが、ノートテイクの存在を知って考え方が変わりました。ノートテイクがあると授業を理解できるんだと思いました。

実際に大学に入って、まず思ったことはノートテイクをしてくれる人たちが明るくて優しいということでした。聞きもれがあったときはもう1度聞いてくれたりするので、すごくいいと思います。それぞれの人の字のクセがあります。私はいつも見ているので、クセを見抜いて読み取れるように頑張ってきました。

「ノートテイク」はとてもいいモンです。

●● 利用者の声 ●●

前川 紋野

もし自分が体が障がいを持っているならば

先日、駅に着いてみるとそれまでなかったエレベーターが新しく出来ており、視覚に障がいを持つ人やお年寄りが歩きやすいようにと、坂が緩くなっていた。

もし車椅子を使う人だったら嬉しくてその駅をどんどん利用してどこかへ行くだろう。

もし視覚に障がいを持つ人だったら点字フロックがもっと増えたら歩くのが楽しくなるだろうし、もし聴覚に障がいを持つ人だったらやっぱりノートテイクをしてくれる人がいると、分からなくて諦めていた世界に光が差し込み、どんどん切り開いてみたくなっているだろう。

だから『大変なのは障がいを持つ人だけじゃない』『もっと頑張ってくれないと困る』と思わないで欲しい。

どんなことをするにしても、誰かを思いやり、その人に歩み寄っていくと、どんなにお互いに素晴らしいことだろうと思う。

ここのノートテイクはアルバイトだけど、それ以前に、人を使うことの大事な一つだと思う。

●ノートテイカーの声●

宮本 真紀

私は、3年生からノートテイクを始めました。ずっと興味はあったのですが、学生生活を送るのに精一杯で、3回の春にやっとノートテイクの講習を受けに行きました。

紙に書ける言葉は、しゃべられている言葉の6分の1だそうです。私の場合、その更に半分といった感じです。最初の頃は先輩のテイカーさんのテイクと自分のを比べたりして、よく落ち込みました。でも、しだいに、一番大切なのは「利用学生さんに伝えるためには、どうしたらいいのか？」を考え続けることだということが分かってきました。これを忘れないければ、テイクは自然と上達していきますし、利用学生さんたちはそれを感じてくれるからこそ、テイカーを信頼してくれるのだと思います。

最後に、ノートテイクをして一番初めに感じたことは利用学生さんやテイカーさんたちの優しさでした。テイクをしていくうちに分かってきたのですが、利用学生さんたちの、テイカーさんへの感謝や信頼感がみんなに伝わって、前向きな優しい雰囲気を作っているのです。それを感じられただけでも、テイカーをしてみて本当によかったなと思いました。

●ノートテイカーの声●

尾崎 瑛子

「おもしろそう」。

最初はそんな単純な動機から、パソコンノートテイク（PCテイク）を始めました。

私が3年間、PCテイクを続けることができたのは、励ましてくれる先輩がいたからです。最初から上手くテイクすることはできませんでした。利用学生さんに申し訳ないなと不安になった時もあります。それでも先輩のフォローに助けられながら、次第に上達していききました。自分の上達が見えると、どんどんやる気が出てきます。そしてますます楽しくなってきました。

パソコンテイクは技術の上達がわかりやすいと思います。やればやるほど上達します。PCテイクは難しい、簡単に誰でも取り組めるものなんです。そして一人ではできません。先輩や仲間がいてくれて初めてできます。

何よりも楽しむことが大切です。そのほうがきっと利用学生さんに楽しんでもらえるから。

「おもしろそう」。

そんな単純な動機から始めて良いと私は思っています。気負わずにみんなが助け合いながら、楽しんで取り組めたら素敵だと思います。

●ノートテイカーの声●

井上 佳織

ノートテイクを始めて約4年になりました。

私は、ノートテイクをしたからこそ多くの人びとと出会え、その大切さと楽しさを知ることができたのだと改めて思い、感謝しています。

ノートテイクの存在は、入学時に配布された冊子で知りました。今、あなたが手にしている冊子です！ノートテイカーを始めたのは利用学生の受講時の手助けができること、また学内でアルバイトできることに惹かれたのが、きっかけです。初めの頃は、先生の話を聞いて書き取るだけで精いっぱい。話に手が追いつかず止まってしまうたり、焦って書いたために読みにくい字になったり、利用学生のみなさんに対して大変申し訳なく、自分自身を情けなく思うことが多々ありました。

しかし、同期や先輩ノートテイカー、利用学生のみなさんと交流を深めていく中でアドバイスを頂き、レバルアップ講座に参加してスキルを積んでいくうちに、少しは成長した自分になったと思っています。また、他大学のノートテイカーや利用学生のみなさんとの交流会にも積極的に参加して意見交換を行い、楽しい時間を持てたと同時に自分の視野を広げられ、大変有意義な機会だったと思います。

少しでもノートテイクに興味を持たれた方は、一度、障がい学生支援室を訪れてみてください。学生生活がもっと楽しくなると思います。

もしも、自分が聴覚障害になったらどう思うか、
考えてみた事がありますか？

普段、通学、通勤しているあなた。もしいきなり耳が聞こえなくなったら、どうなるでしょう。

朝、起きる。

シーんとしている。

TVをつけてニュースを見る。何も聞こえない。

ココアを温める。レンジの鳴る音が聞こえない。

着替える。衣擦れの音は聞こえない。

家を出る。ドアを閉める音は聞こえず、振動しかわからない。

自転車に乗る。風の音も、通り過ぎる車のエンジンの音も、鳥の鳴き声も何も聞こえない。

駅に着く。人は沢山いるのに、とても静かである。

電車に乗る。ただ電車の振動しか、わからない。

駅に着く。が、人が多くて駅表示が見えない。ここはどこ駅？

学校、職場に着く。挨拶をする、される。が、声は聞こえない。

これらの内容は、あくまで補聴器を付けていない聴覚障害者（筆者）を基準とした流れですが、補聴器を付けたとして、音は聞こえるようになるものの、何が何の音なのか鮮明に聞き分ける事はまず不可能なのではないでしょうか。

私は聴覚障害者ではあるが、（普段はろう者と言っているが）日常生活を営む上で、何々が不便と思ったことは特にない。ああ、もし聞こえればよかったのに、と思うことはないわけではない。それでも不便と感ずることではない。聞こえないものは聞こえない、と考えるしかないから。と言ってしまうればそれまでだが、実際そうなのだ。昔は聞こえるようになりたい、聞こえないって不便だ。と思っていた時もありました。本当に、切実に思っていました。でも、現実はその甘くはなかった。聞こえるようになるわけがなかった。

でも、ひとつだけ。聞こえないからって何も出来ないと思わないで欲しい、何も考えていないと思わないで欲しい、それだけです。

●○ ノートテイク Q&A ○●

Q1 ノートテイクって何ですか？

A1 聴覚に障害のある学生も「授業を受けたい！」と思う気持ちは同じです。授業で聞こえる音の情報（先生の声や学生の発言、物音など）をノートに書き伝える事を「ノートテイク」といいます。

Q2 ノートテイクをやったことがないのですが…？

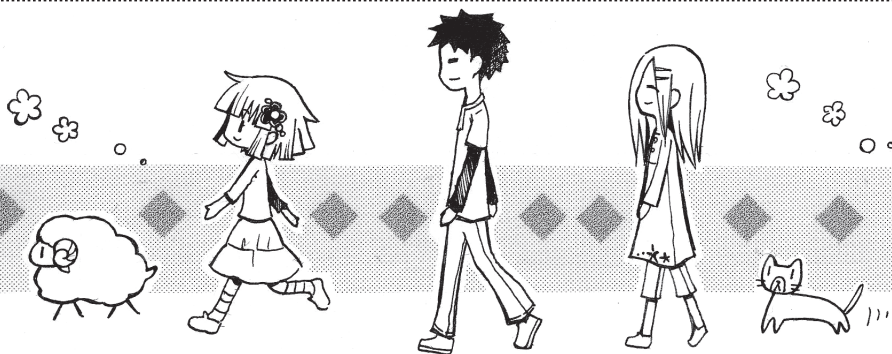
A2 最初は誰でも初めてです。基本的にノートテイクは2人でします。もう一人のテイク（ノートテイクをする人）とペアを組みます。後はコミュニケーションをとりながら継続すれば上達していくし、不安なこと等は相談ができるので心配ありません。

Q3 僕は字が汚いのですが…？

A3 少し遠回りな話しになりますが、講義内容の全てを書き取ることは不可能です。大事な部分をきちんと伝える事が重要になります。多少の字のくずれは大丈夫ですが、字を大きく書く、また出来るだけ読みやすい字を書くよう心がけていく中で変化もみられます。

Q4 ノートテイクはどのように行っているのですか？

A4 通常2人がペアになってテイク用紙2枚ずつで交代して行います。テイクは聴覚障がい学生の両隣に座り、講義内容を要約筆記し、伝えます。また、片方のテイクが書いている時、もう一人はサポート役となり、講師が教科書を読んでいる部分を指し示す、書き漏れた情報を付け加えるなどをします。



●○ノートテイクの申込み方法○●

ここまで読まれて「ノートテイク」に興味を持たれた方、又もっと詳しく「ノートテイク」について知りたい！そんな方は一度、障がい学生支援室へ来てください。

1. ノートテイクの説明・講習会の日程などをお知らせします。
2. ノートテイク講習会に参加してください。

下記の内容で詳しいノートテイクの説明をします。

① 初級養成講座（約 90 分程度）

② 実践編講座 （ // ）

- ノートテイクについて
- ノートテイクの準備
- ノートテイクのノウハウなど
- 簡単なノートテイクの練習
- 体験者の話

3. 講習会の後、（希望者は）ノートテイカーとして登録をします。
4. 先輩テイカーのノートテイクを見学してもらい、実践に慣れた頃にノートテイカーとして講義に入ります。
5. 前後期中に開催されるレベルアップ講習会に参加し、テイクの技術向上を目指します。

以上の流れで進んでいきますので、「初めて！」という方も心配ありません。
詳しくは、障がい学生支援室までお問い合わせください。

京都精華大学

学生課 障がい学生支援室（本館3階）

TEL 075-702-5268 FAX 075-702-5390

Mail chall@kyoto-seika.ac.jp